

教育ビジョン実行プログラム（素案）にかかる意見交換会の実施状況について

○開催日時 平成18年3月6日（月）午後7時から9時まで

○会場 中野区役所5階教育委員会室

○参加人員 22人

○意見の内訳

項目	意見の内容	件数
1	教育ビジョン実行プログラム（素案）全体について	1 件
2	基本的な考え方について	0 件
3	中野区教育ビジョンの概要について	0 件
4	プロジェクトについて（全体、I～X）	20 件
5	その他	4 件
	合 計	25 件

○主な意見・質問とそれに対する回答

NO.	意見・質問等	教育委員会の回答
<p>■ 教育ビジョン実行プログラム（素案）全体について</p>		
1	<p>教育ビジョン実行プログラムの中身については、地域や保護者の理解がないと進めづらいものがある。時間をかけて、区民のコンセンサスを得て決定して欲しい。</p>	<p>決定までのスケジュールについては予定どおり進めるが、一つ一つのプロジェクトを進めるにあたっては、区民への説明を継続的に行い、理解を得ながら進めていきたい。</p>
<p>■ プロジェクトI（幼児教育の環境整備）について</p>		
1	<p>公立の小中学校は残すが、なぜ区立幼稚園は廃園の方向なのか。総合施設が必要ならば保育園を転換すればよいと思う。区立幼稚園に関する記述やプロセスは変わったが、幼児総合施設にすることは変わっていない。なぜ区立幼稚園を廃止するのか理解できない。</p>	<p>幼児教育は重要であるとの認識だが、義務教育ではない。小中学校は義務教育であり、入学できない子どもが出ることは許されない。公立としての役割が小中学校と幼稚園とは違う。当初は募集停止をして廃園、その後幼児総合施設の設置という計画だったが、募集停止をするかどうかを含めて来年度早い時期に結論を出したい。転換の仕方についても幅広く検討していきたい。</p>
2	<p>幼稚園の幼児総合施設への転換にあたっては、私たちの主張が取り入れられ、ありがたいと思っている。できるだけ、子どもたちにより形で幼児総合施設への転換を図って欲しい。しかし、幼稚園の廃園の理由には納得していない。きちんとした説明をして欲しい。また、幼児教育のあり方の検討に際しては、審議会等を発足し、進めてもらいたい。</p>	<p>幼児総合施設については、10か年計画で方向を示しており、国における検討が進んでいる。今は、具体的に着手する段階に来ており、審議会を作らなければいけないとの認識はない。</p>
3	<p>校庭の芝生化と同じように先行事例を検証してから、区立幼稚園の幼児総合施設への転換を図ってもらいたい。（要望のみ）</p>	

4	中野区としての幼児教育のあり方を作っ ていって欲しい。	幼児教育・保育の一定の考え方をまとめる予 定である。
5	経済的事情から区立を希望する人も多 い。区立園をなくしたとき、私立園に行か なければいけない人への補助等につい てはどう考えているのか。	現在の考え方は、私立と区立の均衡を図ると いうものであり、来年度、私立幼稚園保護者補 助金の増額を予定している。区立については保 育料を段階的に値上げし、私立との格差を埋め ていこうと考えている。全体としては、負担を 軽減する方向にある。
■ プロジェクトⅢ（区立小中学校の再編）について		
1	区立小中学校の再編について、今年の小 中学校の入学人数を見て、このまま進めて 大丈夫と考えているか。また、私立に進学 する子どもが増えている。公立学校の良さ を伸ばすことを考えてもらいたい。私立に 余りにも流れると、学校再編どころではな くなる。	再編の影響が出ている学校がいくつかある。 そういった学校は、早期に統合が必要と思われ る。ただし、統合までしっかりした教育ができ るよう支援していく。また、平成20年度の計 画の改定の時期には、平成18、19年度の入 学者の推移を見ながら判断をしていく。 私学への進学率は例年と変わりはないが、長 期的に見ると若干増加傾向にあり、このこと については真摯に受け止めている。公立に問題が あるから私立へ行くということがないように、 今後も区立学校の教育の充実に取り組んでいき たい。
2	学校再編対象校である第六中学校では、 新入生が減ってしまった。支援をお願いし たい。	統合予定校と一緒に連合行事等を行うなど、 学校と相談しながら支援を行っていく。できる 限りのことはしていきたい。
■ プロジェクトⅣ（確かな学力を育む）について		
1	これからの社会において、コミュニケー ション能力はより一層重要になる。中学生 の職場体験を、東京都では年5日間として いるが、区内には5日間生徒を受け入れる 事業所はあるのか。ない場合は、別のこと で日数として充当できないのか。	区としては、学校の実態に応じて職業体験を 推進している。中野区では3日間程度で取組 みを進めているが、体験内容が重要である。今後 もさまざまな機関を通じて、受け入れを依頼す るなど、最大限の支援をしていきたい。
2	職場体験を野方地区では2日間で実施 し、地域と一体となり取り組んでいる。商 店街も活性化が必要でその一端を担ってい ると受け止められている。商店の一部か ら、連続でなければ5日間実施可能である との声も聞いている。	東京都では5日間の実施を推奨しているが、 区では一律に5日間実施することは考えていな い。目的はコミュニケーション能力の育成であ り、職場体験以外の取組みでも能力の育成が図 られることが必要と考えている。
■ プロジェクトⅤ（特別支援教育の推進）について		
1	教員の障害に対する理解が低い。特別支 援教育担当の教員だけでなく、全教職員に 対して研修を行って欲しい。 また、特別支援教育に期待をしている が、区民にその内容が十分周知されてい るとは言えず、相談窓口がどこかもよく分 からない。	特別支援教育については、モデル校での実践 の中で課題を明確にし、理解を深めていき たい。相談窓口については、就学相談のあり方 の見直しを考えており、発達相談を目線に入 れて、間口を広げ、充実を図っていき たい。 教員への研修は平成15年度から充実して おり、平成16年からは、特別支援教育担当の 教員を全校で組織に位置づけ、担当者の研修 を行っている。また、アポロ園や医師会との 連携も進めている。今後も教員が専門職と して力を発揮できる体制の整備を図り、取 組みを充実させていきたい。

2	特別な支援が必要な子どもは、学校に既にある状況である。モデル校への教員の加配をお願いしたい。	教員の配置については、国全体の計画の中で進めていくものであり、区だけでは教員の加配は判断できない。中野区のモデル校へは臨床心理士の派遣を行い、教員の支援を行っていききたい。
3	特別支援教育については、就学相談の時点での安心して相談できる体制や幼児教育の現場での特別な支援が必要な子どもの把握が大切である。（意見のみ）	
■ プロジェクトVI（健康の保持・体力の増進）について		
1	食育は保護者への教育が大切だ。いくら学校で児童・生徒への教育を行っても、学校の負担が増えるだけだ。	食育基本法では生涯を通じた食の知識、選択能力が謳われており、食育の推進には、保健福祉部や子ども家庭部との連携が必要と考えている。また、近年、青年や大人でも朝食を摂らない人が増えている。子どもを通して親が学ぶということもあり、関係部と連携して、保護者への働きかけを行うなど、幅広い取組みを行っていききたい。
2	体力向上プログラムのモデル校へは指導員の派遣のほかに、教員の加配もあるのか。他校のモデルとなるためには教育委員会の援助が必要だと考えるがどうか。	平成18年度から、モデル校での取組みを開始し、19年度には、学校の実態に応じたプログラムの開発を全校で取り組む予定である。モデル校への教員の加配はできないが、インストラクターを招いて軌道に乗せるための支援を行いたい。
■ プロジェクトIX（教員の人材育成）について		
1	教育マイスター制度が導入され、各学校で教育マイスターとなった先生が他校の教員を指導すると、自校の取組みや教育活動がおろそかになるのではないか。	教育マイスターとなった教員には、全区的な活躍を期待しているが、所属校での取組みに支障がない範囲で活躍していただく。
■ プロジェクトX（学校環境の整備）について		
1	学校の連絡網では、情報が回らず、メールや携帯電話で連絡している。登下校時に何かあっても、親には連絡がつかない。	学校情報配信システムを活用して欲しい。不審者情報だけでなく、さまざまな情報連絡も流れるので、加入者数を増やしたい。皆さんからもPRをお願いしたい。
2	登下校時の安全対策の充実には、家庭への働きかけが重要であり、地域の状況を保護者が把握する必要がある。（意見のみ）	
3	校庭の芝生化は整備している期間に校庭が使えなくなるのでは意味がない。屋上緑化や太陽電池などの取組みの方が実用的なのではないか。	若宮小で整備を行っているが、校庭全面を使えないようにはしていない。養生期間には一時使えなくなるが、学校側でもさまざまな工夫をしていく。また、芝生化後は、地域の中に管理組織をつくり運営していただく。なお、先行実施で出た問題点などを検証しながら、次のステップに進んでいきたい。
4	小学生にパソコンが必要なのか疑問だ。親がよく分からないのに、子どもの知識が先行してしまうのは困る。	さまざまな考え方があがるが、情報化（IT化）が進んだ世の中で、子どもたちに一定の知識・活用能力を身につけさせることは必要な教育であると考えられている。しかし、マイナスの情報もあることから、情報モラルを高めていく教育も重要であると考えている。

5	防犯カメラを付けた施錠システムを設置すると、人的な配置が必要となるのではないかと。開かれた学校の中で、どのように運用していくのか。	来客時には、音で知らせる機能があるので、常時、人がいなくても十分機能を発揮させることができると考えている。また、施錠システムは、児童・生徒の授業中の時間に作動させるもので、学校開放の時間などでは作動を解除をするなど、実態に応じた運用を行っていきたい。
■ その他		
1	障害児の学童クラブへの受け入れはどうなっているか。しらさぎ学級では全員地元の学童クラブで受け入れられないといったことが起きている。	しらさぎ学級については、受け入れる形で調整を図ることができたと聞いている。
2	性教育が、教育課題から抜けているのではないかと。命の大切さや、人の尊厳にもつながる。性犯罪の未然防止も含めて重要だと考えるがどうか。	中野区では、文部科学省のエイズ教育（性教育）の地域指定を受け、力を入れて取り組んできた。今後も、学習指導要領に則し、保護者の理解や子どもの発達段階に応じて取り組みを進めていく。
3	子育てができない保護者が増えている。反抗期に親子関係が成り立たず、話し合いも成立しない。年齢に応じたしつけもできずにいる。そうした意味でも、学校教育と学童保育が重要な役割を担っていると思う。	教育委員会では、教育ビジョンの中で「家庭での取り組みの方向」を示し、家庭教育の重要性を前面に出している。今後は、子どもの教育を総合的に考えていかなければならないと考えている。
4	小学校での英語教育については、どの程度取り組んでいるのか。グローバル化された社会では、英語などの外国語にふれる環境が大切なのではないかと。	国でも小学校での英語教育について議論が行われているが、現在のところ、中野区では、日本語の理解やコミュニケーション能力を高め、自己の考えを表現できるように育ててから、時間をかけてしっかりと英語教育に取り組むことが大切であると考えている。